

段ボール—厚さ測定方法

T 0004:2000

Corrugated fibreboard—Determination of thickness

1. 適用範囲 この規格は、段ボールの厚さを測定する方法について規定する。
2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。
 - JIS P 8111 紙、板紙及びパルプ—調湿及び試験のための標準状態
 - JIS Z 8401 数値の丸め方
3. 原理 一定の圧力をかけて段ボール試験片の厚さを測定する。
4. 装置 円形平面型アンビルと同心平面型プランジャを1個ずつ備え、約3923mN(400gf)の荷重を加えることのできるダイヤルゲージ形マイクロメータで、プランジャの直径は約16mmとする。目盛の精度は1/100mm以上とする。
5. 試験片 試験片の大きさは、一辺の長さが約50mmの三角形または正方形のもので、段がつぶれないように注意して採取する。
6. 試験方法
 - a) 試験条件 試験条件は、必要に応じてJIS P 8111の規定により調節された室内で、次によって行わなければならない。
 - b) 試験の手順 計測器の2面間に試験片を水平に挿入し、試験片の中心がほぼアンビルの中心にくるように調整する。その際、プランジャに2つ以上の段頂が掛かるようにする。
プランジャを試験片の方へゆっくりと細心の注意を払って下降させる。試験片は常にマイクロメータの測定面に平行になるようにする。指針が動きを止めた時に、測定値を読み取る。試験片は少なくとも5個以上とする。
7. 結果の表示 試験の結果は、厚さの単位をmmで表わし、JIS Z 8401に規定する方法によって小数点以下1けたに丸めて報告する。
8. 報告 報告には、必要に応じて次の事項を記載する。
 - a) 規格名称又は規格番号
 - b) 試験年月日及び試験場所
 - c) 試験片の調湿及び試験条件(温度及び相対湿度)
 - d) 使用した測定器の種類
 - e) 供試品の明細(段、ライナ、中しんの種類や坪量など)
 - f) 試験回数
 - g) 測定値の最大値、最小値、平均値及び標準偏差
 - h) 試験片の段の状態
 - i) その他、特に記録すべき事項

JCS T 0004:2000

段ボールー厚さ測定方法 解説

この解説は本体に規定・記載した事柄及びこれらに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

今回の改正では、規格様式の変更、SI単位化以外に装置の構造の改正を行った。

改正の主な内容は次の通りである。

1. プランジヤの直径 プランジヤの直径は、従来規格は約10mm、ISO規格は35.8mmでかなりの差があるが、従来規格の場合は直径10mmのためAフルートの時は2面の平面の一方は一山しか接触せず、逆にISO規格は直径35.8mmと大きすぎるため使い勝手が悪い(部分的に段つぶれがあっても計測結果に反映されない)という問題を有していた。両者の問題を解決するため、今回の改正では直径約16mmとした。
2. プランジヤの圧力 試験片が平面に挟まれている時の圧力は、従来規格はプランジヤの質量による加圧で、ISO規格の場合は (20 ± 0.5) kPaの定圧下にあることとなっている。従来規格は加圧がほとんど無い状態で、測定値もバラツキが大きくなる可能性があるため、ISO規格に合わせ (20 ± 0.5) kPaの定圧下にあることとした。